

# 2008年10月号 Mini-WAN



Mini-WANとは  
港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

## ■巻頭コラム

### ■最近のトピックス

- 仁崎海岸(田原市)の自然観察 ○事務所防災訓練を実施
- トリアスロン伊良湖大会と鮮魚直売会の開催
- 三河港のコンテナターミナルについて ○管内野球大会で三河港準優勝!
- 韓国海洋研究院が三河港視察 ○豊橋教育委員会が三河港視察
- 事務所BCM(事業継続マネジメント)意見交換会の実施

■お知らせ・・・毎年恒例「川と海のクリーン大作戦」10月19日(日)朝9時～10時 実施!



## ☆巻頭コラム☆

### 三河港湾事務所長 塩田 昌弘

三河港の蒲郡地区は、中部地方整備局内では第1号の「みなとオアシス」に認定されています。その活動の一環として、「Minato JAZZ Night」が、竹島ふ頭にあるマリンセンターハウスのオープンデッキで開催されました。

平成17年3月に観光交流立市宣言をされた蒲郡市は、JR蒲郡駅から海まで300m程度というアクセスの良さと多くの温泉の存在から、「海の街 がまごおり」「湯の街 がまごおり」を売りにされています。

昨年4月のみなとオアシス認定以来、竹島埠頭からラグーナ蒲郡と西浦温泉への舟運社会実験やヨット体験などを行ってきました。JAZZコンサートもその一環として、昨年は1回だけでしたが、今年は9月と10月に計2回行われます。



JAZZ=ライブハウスというイメージでしたが、野外でしかも海が見える場所での演奏はちょっとした異次元空間でした。天候にも恵まれ、また、出演者自身がとても楽しまれている雰囲気がよく伝わり、来場された方々も満喫されたことと思います。個人的には、同席者が仕事関係の男性ばかりだったというのが、ちょっと残念ではありましたが、

国土交通省港湾局では、みなとを核とした地域の活性化を支援しています。みなとはそれぞれの地域で個性がありますので、様々なアイデアが考えられると思います。地元の皆様に喜んでいただけるよう、今後とも努めてまいりたいと思います。

## 「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
**0120-497-370**

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



みなとの元気は日本の元気



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

## ○豊橋市教育委員会が三河港視察



三河港の特徴について説明

9月25日、豊橋市教育委員会の委員(委員長以下5名)、並びに豊橋市教育委員会教育部の皆様を対象とした三河港の港内視察を行いました。

今回の港内視察は、児童、生徒を対象とした港内視察について、より学習効果の高いものにするため、教育現場に携わる方々に実際に体験をしてもらいました。港内視察に先立ち、塩田所長より港湾の役割や三河港の特徴などについて説明したのち、港内視察をおよそ1時間行いました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、豊橋市教育委員会の委員の皆様から、短時間で効果のある視察行程の提案や説明内容の工夫の方法など、大変参考になる意見を多数頂戴しました。

今後は、これら意見を反映した港内視察カリキュラムを作成し、児童、生徒を対象とした視察に活かしていきたいと考えています。

## ○事務所BCM(事業継続マネジメント)意見交換会の実施

平成7年1月に発生した阪神淡路大震災において、神戸港が多大な被災を受けて以来、みなとにおける防災対策の重要性が認識されています。特に、中部地方は、国内の産業活動の中心となっているため、災害時に企業活動が停滞すると、日本全体に大きな影響を及ぼすことが想定されます。このため、中部地方整備局では、平成18年9月に「港湾利用企業の産業防災研究会」を設立し、「被災した方々の生活支援」に加え、「経済活動、産業活動の支援も考えた防災」を目指しております。

三河港湾事務所においても、昨年度より、産官学のメンバーによる「三河港臨海部BCM研究会」を立ち上げており、今年度も引き続き行く予定です。その一環として、事務所そのもののBCMについて検討するために意見交換会を開催しました。災害時に事務所が果たすべき役割や、情報共有のあり方など多くの課題が提起され、今後の宿題となりました。

三河地区におけるみなとの防災に関しては、10月4日に、NPO法人中部みなと防災ネット主催により、「みなとの防災を考える講演会」が開催され、豊橋技術科学大学の青木教授、名古屋産業大学の石橋准教授による講演が行われました。また、10月24日には、第28回研究交流会(主催:国際自動車コンプレックス、場所:ポートインフォメーションセンター「カモメリア」)において、「みなとの防災について～神戸港の経験から～」と題して、神戸市みなと総局の豊田参事による講演が予定されています。

防災対策は、関係者間の連携が非常に重要となるため、港湾管理者、地元自治体や臨海部企業などの関係の方々との協力しつつ、取り進めて参りたいと考えております。



意見交換会の様子

### ☆お知らせ☆

## 毎年恒例「川と海のクリーン大作戦」 10月19日(日)朝9時～10時 実施!

近年、河川や海岸には、不法投棄、漂着ごみ、河川・海岸を利用した後の置き去りごみ等が増加しています。そこで、三河港湾事務所では、「川と海のクリーンアップ大作戦」の一環として、「NPO環境ボランティアサークル亀の子隊」と共同で10月19日(日)9時から10時



にかけて、田原市渥美西の浜で海浜清掃を行います。ふるさとの河川や海岸の美しさを取り戻すためにも、多くに皆さんの参加をお待ちしています。

詳細の活動場所は下記のHPを参照してください。

☆亀の子隊HPアドレス☆ <http://www.kamenoko.org/>



昨年の活動の様子

★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

## ○仁崎海岸（田原市）の自然観察

8月31日、田原市にある仁崎海岸で、NPO東三河自然観察会主催「自然海岸を楽しもう」が行われました。同海岸は、海岸背後の陸側に人家や田畑がないため、高波などを防ぐための堤防がない自然海岸となっています。渥美半島の三河湾内側の海岸の多くはこうした岩礁海岸となっており、潮の干満の作用や潮風により磯浜特有の生物や



仁崎海岸

海浜植物が多く生息しています。観察会では、このような海岸ができた経緯や、ハマカンゾウやハマアザミなどこの付近に生育している特徴的な植物、ヒザラガイやタマキビガイなどの磯場に生息する生物について学びました。

前日は豪雨でしたが、現地周辺は潮だまりの水も濁りがなく、岩の割れ目にいる生物も容易に見つけることができ、多くの生物の生息を観察できました。



ハマアザミ

## ○事務所防災訓練を実施

9月1日、防災の日に当事務所の防災訓練を実施しました。

今年は「災害発生時のライフライン確保」に重点をおき、電源確保のための非常用電源装置及びポータブル発電機の起動訓練、情報連絡手段確保のためのインマル衛星携帯電話及びN T T衛星携帯電話の設置訓練を中心に行いました。これらの機器は、普段は防災関係の担当職員が取扱っていますが、災害発生時は職員の誰もが操作できることが求められます。今回の訓練を通じて、参加した職員は皆、それらの機器の取扱いができるようになりました。その他にも、防災応急対策として消火器を使用した消火訓練などを行い、約4時間にわたる訓練を終了しました。

災害はいつ発生するか分かりませんので、日々の訓練が非常に重要であり、当事務所としても今後も様々な訓練を実施していきたいと思えます。



消火訓練



発電機の起動訓練

## ○トライアスロン伊良湖大会と鮮魚直売会の開催



水しぶきを上げながらスタート！

9月7日、毎年9月初めの日曜日に伊良湖岬で開催される「トライアスロン伊良湖大会」が盛大に行われました。9月に入ったというのに、まだ真夏を思わせる暑さの中、北は茨城県から南は沖縄県まで、897名の選手達が自らの限界に挑戦し、ゴールを目指しました。

同大会は、地元の方々や福江高校のボランティアの方々の温かい支援、日出の石門などを望む最高のコース設定、地元の漁業関係の方々から無料で振る舞われるアサリ汁などが大変人気のある大会で、リピーターも多く、1987年の開催から今年で22年目を迎えました。今年は更に、トライ

アスロンの開催後、地元漁業関係者のご協力により、一般の方々その日に捕れた新鮮な魚を購入できる「鮮魚直売会」が伊良湖港で催され、三河湾で捕れた伊勢エビ、たこ、真サバ、タチウオ、大アサリなどが卸値価格以下で購入でき、訪れた人達に大変好評でした。今後も鮮魚直売会は定期的に開催が検討されており、伊良湖港周辺の更なる賑わいが期待されます。



鮮魚直売会にも多くの人々が訪れました

## ○三河港のコンテナターミナルについて

三河港におけるコンテナ貨物については、平成10年にコンテナターミナルが開設して以来、取扱量も着実に増えており、昨年度は約38,000TEU（※TEUとはコンテナの国際規格単位で、20フィート（約6m）コンテナ1個=1TEUです。）にまで伸び続けています。

昨年度までは、1基のガントリークレーン（コンテナを積み卸しするための専用クレーン）で対応しておりましたが、今年4月には2基目のクレーンが供用開始、9月にはクレーンや荷さばき用地も含めたコンテナターミナル全体を効率的に管理運営するため、2月に設立された三河港コンテナターミナル



ガントリークレーンで荷をおろす様子

（株）を指定管理者とする等、ハード・ソフト両面で充実が図られています。さらに、9月からは、新たなコンテナ貨物の集荷を目指して、三河港振興会より「三河港新規輸出コンテナ助成金制度」が導入され、1TEUにつき5,000円（50TEUまで）が助成されることとなっています。

現在、韓国や中国への定期航路が週5便開設されていますが、さらなる助成制度が検討されており、ますます便利になることが期待されています。

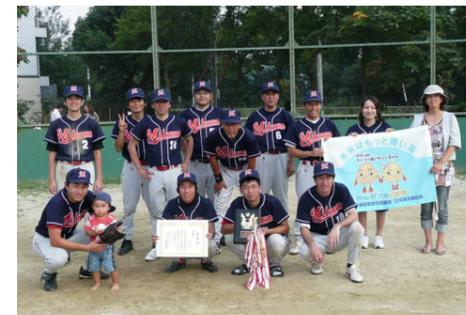
## ○管内野球大会で三河港準優勝！

9月13日、名古屋市港区の稲永公園球場において、第40回管内野球大会が行われました。試合は中部地方整備局管内の港湾関係事務所など8チームによるトーナメント方式で編成され、2試合勝ち抜くことが出来れば決勝戦に進めます。一昨年から2年連続準優勝の我が三河港チーム。今年こそ優勝を目指し、お昼休みには暑さが厳しい日も出来る限り練習を積み重ね、試合が近づくにつれメンバーの団結力も一層高まってきました。



三河のエースの力投！

いざ、プレイボール。1回戦を9対3で突破し、続く2回戦は去年決勝で敗れたチームとの対戦となりました。去年のリベンジを果たすため気合い十分で挑んだ試合は、16対4で勝利！絶好調のピッチ



来年こそは優勝するぞ！

ングとホームラン3本もの猛打線で見事に決勝戦へ勝ち進みました。しかし、喜びもつかの間。決勝戦の相手は、大会前から優勝候補とうわさされていた強豪チーム。うわさは確かなもので、連続試合の疲れも感じさせないピッチングや固い守備に圧倒され、更に年齢層が高くスタミナが切れた我がチームは16対0と最後まで点数を返すことができず完敗でした。

今年も念願の優勝を逃す結果となりましたが、チーム全員で全力を尽くしてつかんだ準優勝に満足感でいっぱいでした。

## ○韓国海洋研究院が三河港視察

9月19日、韓国海洋研究院6名の方が三河港を視察されました。当日は、台風13号の接近で悪天候の中、三河港のラグーナ蒲郡、三河臨海緑地、三河港(カモメリアから港を俯瞰)を視察して頂きました。

韓国海洋研究院は、海洋に関する全ての分野を扱う韓国の海洋研究の中心的存在で、日本で言えば(独)港湾空港技術研究所、(独)海上技術安全研究所、(独)海洋研究開発機構、(独)水産総合研究センター水産工学研究所の機能をもった研究所です。今回は臨海部の活性化に関する研究のために海外の事例として日本を視察されているそうです。



三河臨海緑地にて

今回の視察に際し、ラグーナ蒲郡、愛知県三河港務所、豊橋市港湾活性課の皆様、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。



カモメリア展望室にて